



(株)大和 静岡工場（農場）現状報告 平成 25 年冬号

日に日に寒さが厳しくなってきました。

この時期の牧之原台地の茶畑では、ススキなどの山草を刈り細く切って畑の畝間に敷きつめる作業を行っています。このようなイネ科の植物には、土から吸い上げた栄養分の「ケイ酸」たっぷり含まれ、それが保肥力・保水力を高め土中に空気が入ることで、土がふかふかに柔らかく若返るのです。

この作業が『茶草場農法』で、2013年世界農業遺産に第1号の実践者として認定されました。

さらに、土づくりを大切にする当園では、微生物を利用した手づくりの『もみがら堆肥』を1月から加えていきます。この『もみがら堆肥』により土中の微生物が増殖し、生命力がみなぎるふっかふかの土壌となるのです。お布団のようにあたたかい土壌に包まれ、茶樹はしばらく冬眠に入ります。寒い冬にしっかりと冬眠させることが春の新芽をおいしくさせる秘訣なのです。地味な仕事ですが、おいしいお茶作りに愛情を込めて行っております。

日本文化の中で、お茶が一番のおもてなしです。当園のお茶が皆様のおもてなしにお役に立てれば幸いです。



山草刈り【山草を刈り取ります】



【刈った草を細かく裁断します】



【茶畑に敷き詰めます】



もみがら堆肥



【もみがら、米ぬか、VS34 を混ぜます】【水分を加え拡販して発酵させます】



【切り返し】